

大洋薬品工業(株) 高山工場における 省エネルギー空調設備について

服部 康秀 (はっとり やすひで) 東洋熱工業(株) 名古屋支店 副支店長

1. はじめに

1994年に日本の総人口に対する高齢者の割合は14%を超え、高齢社会の幕が開けた。総務省の平成18年10月の発表によると、65歳以上の高齢者人口は2,660万人で、人口比20.8%となっており、そのうちの90歳以上の人口は115.5万人とされている。

高齢社会の到来に伴い、医療保険制度や、医療費増加の問題がクローズアップされており、中でも医療費節減に関しては医薬品価格の抑制が焦点として検討されている。薬剤費は総医療費の約20%を占めており、それを減らすことで医療費の増加を抑制することが出来る。そこで注目されているのが、成分や効き目が同じで、安価な「ジェネリック医薬品(後発薬品)」である。

本稿で紹介する大洋薬品工業(株)高山工場はジェネ

リック医薬品の国内最大級の生産量と販売実績を誇り、工場内では最新鋭の生産機械や無人搬送設備が稼動し、生産効率の高いシステムが構築されている。

エネルギー関連についても温度成層型水蓄熱槽やインバータ・ターボ冷凍機など高効率で省エネルギー性の高い空調設備や各種ユーティリティ設備が設置され、また瞬停対策も兼ねた蓄電効率の高いNAS電池等も導入され効率の高い生産システムを支えている。

今回はこれらの省エネルギー空調設備およびユーティリティ設備を中心に紹介する。

2. 工事概要

2.1 建物概要

建物名称：大洋薬品工業株式会社 高山工場



写真 1 高山工場の全景